

私のカンボジア支援 ーその6ー 建設会社との契約書(約款)を徹夜で作ってくれた佐藤弁護士

良い建設会社にも恵まれて、校舎建設は順調に進む！

2001年当時1棟5教室の校舎建設費は日本円で270万円でした。その建設費は、日本の善意の方々からの寄附金ですから失敗は許されません。

まだカンボジアに建築技術も、鉄筋・セメントの資材もない時代、信用できる建設会社を探すことは、経験もなく現地の事情も知らない私にとっては非常に難しいことでした。 (支払ったお金を持ち逃げされたらどうしよう。鉄筋の校舎が建てられるのだろうか？ など等・・・心配の種は尽きませんでした。)

そこでカンボジアに行く前に、知り合いの東京弁護士会所属の佐藤弁護士さんに、相談しました。「カンボジアの事は分からないから、日本の法律に合わせて約款を作る」と徹夜で作ってくれました。

ありがたかったです。あれから20年が過ぎましたが今も感謝しています。

校舎建設は、既にカンボジアで校舎建設をしている日本のNGOに「この会社は信用できる、仕事も丁寧だ、うちの団体の校舎建設も頼んでいる」とA社を紹介してもらいました。

華僑系の人柄の良さそうな社長さんでした。以前に建設した校舎も見せてもらいました。建設会社に行って、倉庫にあるセメント・鉄材・レンガ・瓦等も見てきました。「さすが華僑だ。華僑のネットワークで、これだけの建設資材が集まるのだ！華僑の繋がりは強い」と底力を感じました。

建設会社は決まりましたが、約款をクメール語に訳すのが大変でした。約款の内容をカンボジアの日本語通訳に3日間説明し、クメール語に直してもらいました。日本語に当てはまるクメール語が無く、私が説明しても理解してもらえず・・・何とか翻訳が終わりましたが建設会社への説明にも2日かかりました。

約款の第一項に「違反した場合の裁判は東京で行う」と有り、「これでよいですか？」と聞くと、社長は、「何処で裁判してもいいよ。東京でもどこでも構わない。私は悪いことはしないから大丈夫だ！」と約款を認めて、契約書にサインをしてくれました。

佐藤弁護士が徹夜で作ってくれた契約書(約款)は今も使われています。

こうして2002年2月、私のカンボジア支援第一号・トモケオ小学校(5教室)の校舎は頑丈に綺麗に出来ました。

第一号校舎以来40数校を建設したカンボジアの建設会社社長は、今はプノンペンで大規模土地開発をして、高級マンションや高級住宅団地を売出し、大きな不動産会社を運営しています。

大金持ちになっていると聞いています。

当時のカンボジアの校舎や授業風景



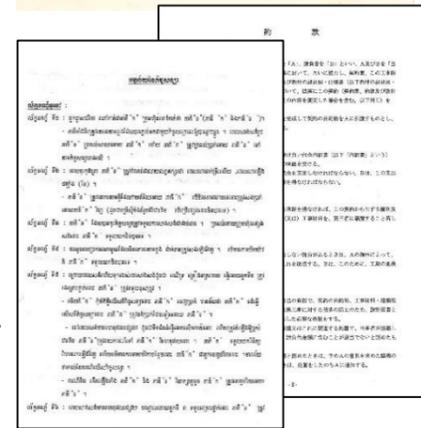
隙間だらけの壁



お寺の床下を利用した授業



校庭に椅子をならべて授業



カンボジア語に翻訳された約款

◇ご支援をお願いいたします。

教育環境を整え、貧しい子に教育の機会を提供し、先生に指導力の向上のお手伝いをしています。SSFCの活動へのご支援をお願いいたします。寄附金のお振込みは、右記からお願いいたします。

- 三菱UFJ銀行 神保町支店
口座番号(普) 0968555
- ゆうちょ銀行 00110-2-767497
口座名: 公益社団法人 SSFカンボジア

詳しい解説・近況報告はSSFCホームページに掲載(ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/>)しております。ぜひご覧ください。右のQRコードからもアクセスできます。お問い合わせは、TEL: 03-6272-5717 FAX: 03-3511-5019 E-mail: info@ssf.or.jp



※活動内容の報告(バックナンバー)はホームページ「<http://www.ssf.or.jp/>」にも掲載されますので、ぜひご覧ください。



ព្រឹត្តិបត្រ によにゆむは、カンボジア語で「笑顔」という意味です。

によにゆむ通信

2019年2月号 No.14

公益社団法人
Sumita Scholarship Foundation, Cambodia
(SSFC) 代表理事 住田平吉
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町2-44
第二石坂ビル502
TEL: 03-6272-5717 FAX: 03-3511-5019
E-mail: info@ssf.or.jp
ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/>

◆「京都伏見ロータリークラブ」の一行21人、ポットロン小学校訪問

※ 京都伏見ロータリークラブは、「京都伏見RC」と表記します。

■暑い日差しの中、船でトンレサップ川横切り支流を遡って40分

2019年2月23日朝7時、京都伏見RCの人見会長・永井幹事を始めとして会員21人がバスでプノンペン市内のホテルを出発し、コンボンチュナン州の島の学校ポットロン小学校に向かいました。(ポットロン小学校は、2012年、私の所属していた公益財団SAJに、京都伏見RCの建設資金で建てられた学校です。しかし、創設者である武田元会長様が、カンボジアツアーを楽しみしながら、10月に他界されたとお聞きし、大変残念に思いました。今日は写真で参加しています。

一行の中には、「洪水で島が水没し、柱が傾き倒れ掛かった校舎1教室のポットロン小学校」の調査時から、5教室の校舎が完成した贈呈式、その後の視察等、これまでに4回もポットロン小学校に来ていただいた元会長のお二人(杉本様と一瀬様)の顔も見え、大変懐かしく嬉しかったです。会員の中にはカンボジアに初めて来た方も多く、見る物聞くもの全てに興味津々でした。船の着岸地まで歩いて行く途中で、地元の市場の露店でつるして売っている豚の頭や足がついた腿肉に驚き、市場の喧騒と活気に圧倒されていました。一行の長老方が「昔の日本の闇市の活気を懐かしく思い出した。」と話していました。

暑い日差しの中、船でトンレサップ川を横切り、支流をさかのぼって40分、ポットロン小学校の下で着岸し船を下りました。船の着岸地から学校まで200人の生徒が2列に並んで出迎えてくれました。生徒たちは一行が来るのを朝7時から待っていたそうです。

■授業参観の後、歓迎式及び教材教具の贈呈式をしました。

(ナウ・ナー校長の歓迎の挨拶) 京都伏見RCの方々には8年前に立派な高床式の校舎を建てていただき、今また、教育内容の応援に、遠い日本からお出でいただき有難うございます。生徒も先生も心待ちにしていました。この立派な校舎が出来たお陰で、先生も3人に増えました。学区外の他の村から来る生徒も多く、今では195人(幼稚園該当児20人を含む)にもなりました。私たちは全員師範学校を出ていますが、授業の仕方は習っていません。教えてくれる先生が居ませんでした。ですから、先生は生徒に教科書を読ませた後、難しい言葉を説明し、教科書の文章をノートに写させて授業を終わっていました。それが授業だと思っていました。今はSSFCの住田さんから「生徒によくわかる授業の仕方」を習っています。私たちが知らなかった教え方を習っています。先生が勉強しなければよい授業は出来ないと住田さんからいつも言われています。先生が勉強して生徒によくわかる授業をすれば、生徒は授業に集中します。今は授業するのが楽しくなりました。皆様の応援に感謝しています。有難うございます。

■懐かしい、また来て良かった！

生徒を見れば、先生の日頃の指導がわかる！(人見会長の挨拶)

たった1時間の授業参観でしたが以前に来た時と比べて、生徒が活発で、1年生でも授業に集中しているのには驚きました。先生も生徒の興味を引き、よく分かるように、自作のいろいろなカードを使って教えている授業も見ました。このような先生の努力が生徒を変えているのだと思います。今日はSSFCの住田さんに頼まれて、プノンペンで購入した沢山の掛け図や物語の本、日本でも買ってきた算数の教具セットや先生用の三角定規やコンパス・分度器も持ってきました。この校舎と今日の授業を見て、そして子どもたちに会って「ポットロン小学校に来てよかった！」と思っています。

船で川を下ってポットロン小学校へ



ポットロン小全校生徒が出迎え



2月の訪問時に全校生徒と記念写真



京都伏見RC人見会長挨拶



人見会長の話を静かに聞く生徒たち



武田様の写真と一緒に挨拶する杉本前会長



ポットロン小学校歓迎式及び教材教具の贈呈式

「たくさんの教具を有り難うございました。うれしいです。生徒によくわかる授業をするために、使わせていただきます。」

■京都伏見RCの参加者全員で、先生に教具の贈呈をしました。

〔掛け図〕国語:クメール語の母音と子音一覧表、動植物の名前図鑑等12枚。算数:掛け算九九表、図形表等9枚。社会:カンボジア地図、乗り物図等8枚。理科:人体解剖図、目耳鼻の解剖図等8枚。〔先生用教具〕地球儀2、三角定規、コンパス、分度器(各1セット)。〔子ども用教具〕算数セット15箱〔図書〕カンボジアの昔話30冊

上記の教具を全員で校長と3人の先生に贈呈しました。渡した後、先生に算数セットの教具の使い方を説明している人もいました。

■ポットロン小学校の先生3人のお礼の言葉

▼イエン・スラッ先生(男・21才・教師歴6ヶ月)

私は1年生と6年生を担当しています。1年生は何も分からないので、自分で考えて、字の形のカードや数字のカードを作って教えています。6年生には師範学校で習った、教科書を読ませて、内容の説明をして、ノートに教科書の文を写させて終わる授業をしていました。住田さんに「生徒によくわかる教え方」4項目を習ってから、教える内容を自分が勉強して授業をしています。

▼チェン・スライ・チャン先生(女・25才・教師歴2年)

私は4年生と5年生を担当しています。「生徒によくわかる教え方」を住田さんに習って、少しずつですが、教え方がわかってきました。ただ教科書を読ませるだけでなく、読ませる目的を先生が持たなければいけないことも教えられました。先生が勉強しなければ、生徒にわかるように教えられないことを知りました。

▼ケオ・ソックヤー先生(女・28才・教師歴6年)

私は2年生と3年生を担当しています。私が事前に授業の勉強をして授業をすると、生徒の授業態度が違います。授業に集中するし発言も多くなります。生徒が変わって、良くなってきます。そうすると、私もうれしくなります。



贈呈する教材・教具



京都伏見RC会員から先生に手渡し



京都伏見RC会員から先生に手渡し

■コンポンチュナン州ソッ・マーイ郡副教育長の話

洪水にも水没しない頑丈な校舎をありがとうございます！村人も感謝しています。8年前の贈呈式には、私も参加しました。今度は先生への授業の指導を有り難うございます。教育レベルも州都近郊の学校と比べたら、この村(学校)は劣っています。SSFCの支援に期待しています。



挨拶する郡の副教育長



挨拶するナウ・ナー校長



挨拶する先生

■京都伏見RCから、生徒全員へ3色ボールペンのプレゼントに子どもたちの歓声！

1時間以上の式の間、幼稚園児20人を含む全校児童195人が、静かに椅子に座って式を見守っていました。大声で話す子どもも・立ち上がってうろろう出歩く子もいないのには感心しました。人見会長も「子どもがよかったねー！教育の成果がここにも出ているね。」と、しきりに感心していました。

杉本元会長が「ポットロン小学校の子どもたちはえらい！静かにしていて式を盛り上げました。そこで皆にご褒美をあげます」と話して、3色のボールペンを箱から取り出しました。子どもたち全員の目が集中しました。通訳の話に子どもたちは歓声を上げました。

京都伏見RCの21人全員で、子どもたちに1本ずつ手渡しました。先生にも郡教育局の方にも上げました。

6年生の子どもの1人は、「3年生の時にいただいた3色ボールペンを、まだ大事に使っています。今いただいたのは、中学に行って使います。ありがとうございます」と話してくれました。



3色ボールペンを子供たちにプレゼント



ボールペンがもらえると歓声をあげる生徒



無事終了、カンボジアの豚肉弁当を頂く

3人の先生の授業とSSFCの指導(2月20日と21日)

■算数 小1 イエン・スラー先生(5の数以下の引き算)

4-1はいくらですか？先生は、4本のペンを缶に入れて、生徒に1本とらせ残りを数えさせて、3本と全員に確認し教えている。次に4-2と問題を書く。生徒に指を4本出して見せ、2本はずして答えは2と教える。4-3の問題を出し、生徒に解かせる。全員が考えている。指を使って答えを出す子、考えて(暗算で)答えを出す子もいる。先生は、缶の中に4本のペンを入れて生徒に3本とらせる。残りは1本、答えは1と答えを教える。

▼研究会 イエン・スラー先生の発表

生徒に5の数以下の引き算を教えた。幼稚園生(村人は幼稚園の先生を雇えないので、学校で預かっている)もいるので、その子たちを除いて、多くの子はわかったと思う。まだ数字が書けない、読めない子どももいるので、個別に教えている。

▼住田の感想:5以下の数字の引き算でペンや指を使って解らせたのはとても良い。これは次に教える10の構成も同じで、数字の組み合わせが理解できていけば足し算より難しい引き算も簡単にできる。ペンや指を使って計算することを早く止めたい。これが考えさせる算数のもとになる。

■国語 小2 ケオ・ソックヤー先生(言葉を知る)

先生は自作の単語カード3枚を黒板に張る。3枚のカードを読んで生徒に意味を教えた後、声をそろえて読ませる。さらに、このカードを使って文を作ってください。生徒が3枚のカードを並べ替えて文が通るように考える。

生徒が並べ替えたカードを黒板にはり文を読む。先生は、生徒に「これは合っていますか？」生徒全員「合っています」。

▼研究会 ケオ・ソックヤー先生の発表

2年生でも字が読めない・書けない生徒もいて困っている。前日の授業で身近にある道具の読み方・書き方を教えた。今日の授業では前日に教えた「勉強・学校・私」3枚の単語のカードを並べ替えて、簡単な文を作ることと書くことを教えた。「私は学校で勉強する」の「は・で・する」の接続詞や動詞などは教えないが、日常生活で話している言葉なので分かったと思う。

▼住田の感想:ソックヤー先生が自作のカードを使って授業をしたことは、とても良い。子どもが黒板に貼ったカードを見て、授業に集中できた。授業で大事なことは「授業に集中させること」だから。「字が読めることと書けること」は「勉強をするための基礎」なので、2年生までには必ず教え込まなければならない。1・2年生の勉強は全ての勉強の基礎なので大切だ。

■理科 小4 チャン・スライ・チャン先生(目のしくみ)

先生:目について何があるか質問する。生徒は「黒い所がある、白い所もある」先生は、教科書に書いてある目のしくみを生徒に読ませ、教科書に載っている目のしくみの図(目の断面図)を黒板に書く。先生は、黒板に書いた目の断面図を、生徒にノートに写させ、目の断面図の部位の働きを大まかに説明するが質問は出ない。

▼研究会 チャン・スライ・チャン先生の発表

目のしくみを教えた。子どもに目について何があるか言わせた。生徒の答は目の外側(見かけ)のことが出た。今日の授業では子どもに、教科書の目のしくみを読ませて、私が黒板に図を書いて説明した。

子どもに目のしくみをわからせればよい。わからせることが目的で次の授業でそれぞれの役割を教える。

▼住田の感想:教科書に出ている目の仕組みの図を黒板に書いて説明したのは良い。目の指導計画を作って教えれば時間が有効に使える。指導計画があれば目の仕組みと役割を1時間で教えられる。



緊張して授業をする先生



授業参観する京都伏見一行



イエン・スラッ先生(左)

チャン・スライ・チャン先生(右)

ケオ・ソックヤー先生(中)



村の家を見学する一行



ポットロン小学校で記念写真